鳴　門　市
子育て支援に関わる事業所調査

調査報告書（事業所）

令和７年 11 月

鳴門市

目　次

Ⅰ　調査の概要　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1

Ⅱ　調査結果　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　3

問１　性別　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　4

問２　年齢　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　4

問４　事業所での立場　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　5

問５　雇用形態と保有資格　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　5

問６　こども・若者への支援に携わっている期間　・・・・・・・・・・・・・・・・・　6

問７　事業所利用者の年代　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　7

問８　事業所利用者の居住地　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　7

問９　事業所を利用するきっかけ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　8

問１０　事業所の提供サービス　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　9

問１１　提供サービスで力を入れている内容　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　10

問１２　事業所を利用できる時間帯　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　11

問１３　困難な問題を抱えている方の有無　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　13

問１４　困難な問題の内容　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　13

問１５　困難な問題を抱えている方への支援や援助　・・・・・・・・・・・・・・・・　15

問１６　ニートやひきこもり状態にある方と交流機会の有無　・・・・・・・・・・・　17

問１７―１　ニートやひきこもり状態にある方とつながりを持ったきっかけ　・・・　17

問１７―２　つながりを保つための支援や援助　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　18

問１８　利用しやすい環境づくりに向けた取り組み　・・・・・・・・・・・・・・・・　19

問１９　こども・若者の支援を行う中で感じている課題　・・・・・・・・・・・・・　23

問２０　こども・若者の居場所づくりと事業所の活動内容のつながり　・・・・・・　26

問２１　こども・若者の居場所づくりにつながっていると考える理由　・・・・・・　26

問２２　現在相談・連携している機関あるいは今後相談・連携したい機関　・・・・　29

問２３　行政が特に力を入れていくべきこと　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　35

※問３は事業所名に関する設問となっており、調査の分析に影響しないため、調査結果は省略します。

Ⅰ　調査の概要

1　調査の目的

すべてのこどもが将来にわたり健やかに幸せな状態（ウェルビーイング）で過ごせる「こどもまんなか社会」の実現を目指し、令和７年度に策定する「鳴門市こども計画」の基礎資料とするため、鳴門市の子育て支援に関わる事業所に勤務されている方を対象に、日頃の業務の中で感じている課題観などのアンケート調査を実施しました。

2　調査概要

・調査地域：鳴門市全域

・調査対象者

子育て支援に関わる事業所に勤務する方

（市内放課後児童クラブ、放課後等デイサービス事業所、こども食堂、フリースクール等に勤務する方）

・調査時期

令和７年９月 16 日～令和７年９月 30 日

・調査方法

郵送配布・WEB 回収

調査対象者	配布数	有効回収数	有効回収率
子育て支援に関わる事業所に勤務する方	86 件	70 件	81.4%

3　報告書の見方

・回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第 2 位で四捨五入したものです。そのため、単数回答（複数の選択肢から 1 つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が 100%にならない場合があります。このことは、本報告書の分析文章、グラフ及び表においても反映しています。

・複数回答(複数の選択肢から 2 つ以上の選択肢を選ぶ方式)の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が 100%を超える場合があります。

・グラフ及び表中に「不明・無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が困難なものです。

・グラフ及び表中の n（number of case）は、集計対象者総数（あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人）を表しています。

Ⅱ　調査結果

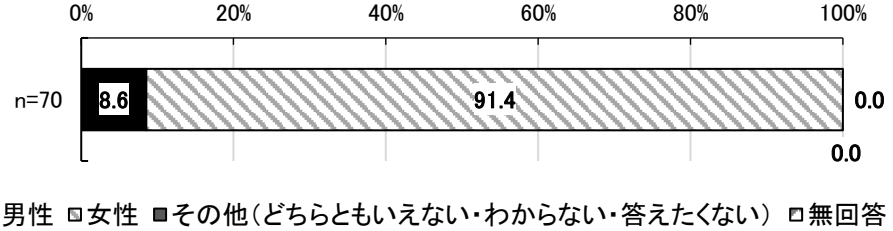
はじめに、あなた自身のことについてお聞きします。

【全員にお聞きします】

問１　あなたの性別を教えてください。（○は１つ）

性別について、「男性」8.6%、「女性」91.4%となっています。

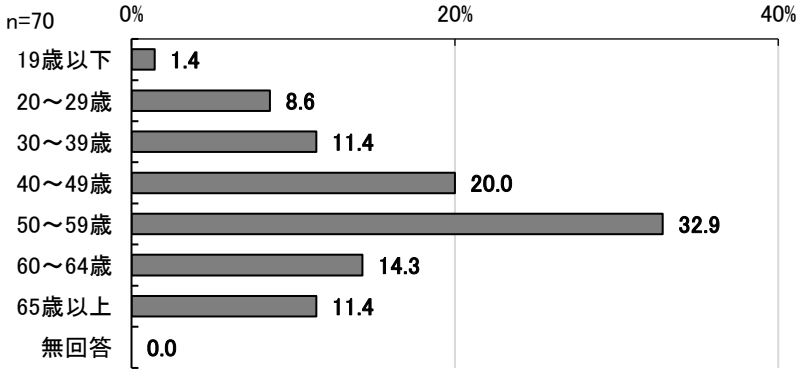
【全体】



問２　あなたの年齢を教えてください。（○は１つ）

性別について、上位から「50～59 歳」32.9%、「40～49 歳」20.0%、「60～64 歳」14.3%などの順となっています。

【全体】

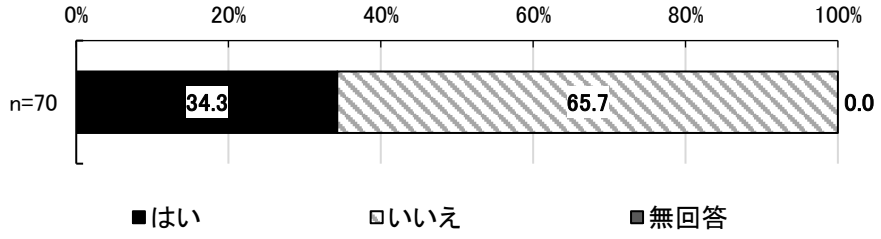


※問３は事業所名に関する設問となっており、調査の分析に影響しないため、調査結果は省略します。

問４　あなたは事業所の責任者もしくは経営者ですか。（○は１つ）

事業所の責任者もしくは経営者かどうかについて、「はい」34.3%、「いいえ」65.7%と、全体の３割が事業所の責任者もしくは経営者となっています。

【全体】

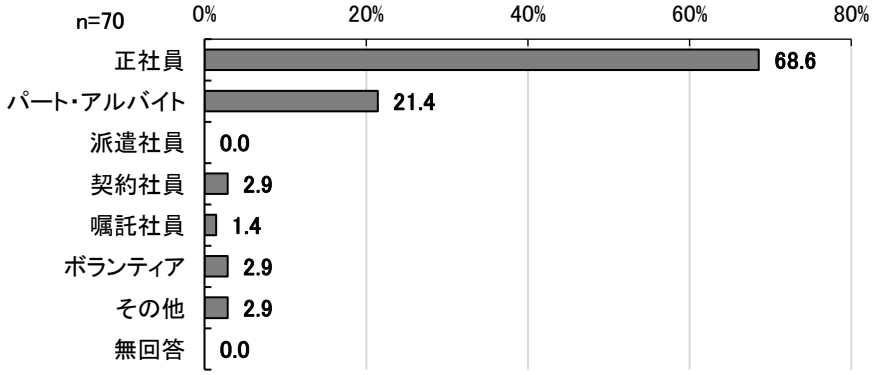


問５　あなたの雇用形態とこども・若者への支援に関連する資格を有している方はその資格名を教えてください。

（１）雇用形態（○は１つ）

雇用形態について、上位から「正社員」68.6%、「パート・アルバイト」21.4%となっており、全体の９割が「正社員」もしくは「パート・アルバイト」の雇用形態となっています。

【全体】



（その他）

・放課後児童支援員、正会員

（２）保有資格

保有資格について、保育士をはじめとする教員免許や放課後児童支援員、社会福祉士など多岐にわたっています。

【教員免許】
保育士 32 件、幼稚園教諭免許 12 件、小学校教諭免許７件、中学校教諭免許７件、高校教諭免許４件、養護学校教諭免許、特別支援学校教諭免許

【その他教育関係】
放課後児童支援員 25 件、児童発達支援管理責任者２件、子育て支援員２件、児童指導員、準中級レクリエーションインストラクター、健康運動実践指導者

【福祉関係】
社会福祉士４件、介護福祉士、相談支援専門員

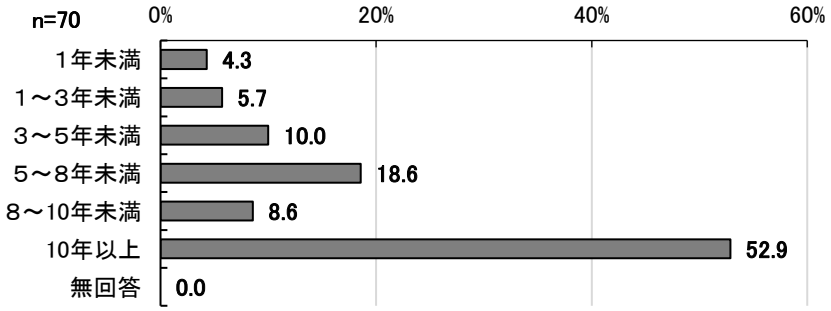
【医療関係】
理学療法士、言語聴覚士、助産師

【食品衛生関係】
食品衛生管理責任者４件

問６　あなたはこども・若者への支援に携わりはじめてからどれくらいの期間になりますか。（○は１つ）

こども・若者への支援に携わるようになってからの期間について、上位から「10 年以上」52.9%、「５～８年未満」18.6%、「３～５年未満」10.0%などの順となっています。
“5 年以上”(「５～８年未満」、「８～10 年未満」、「10 年以上」の合計の割合)は 80.1%と、支援に携わりはじめてからの期間が長い方が多くなっています。

【全体】



利用者の状況や活動内容についてお聞きします。

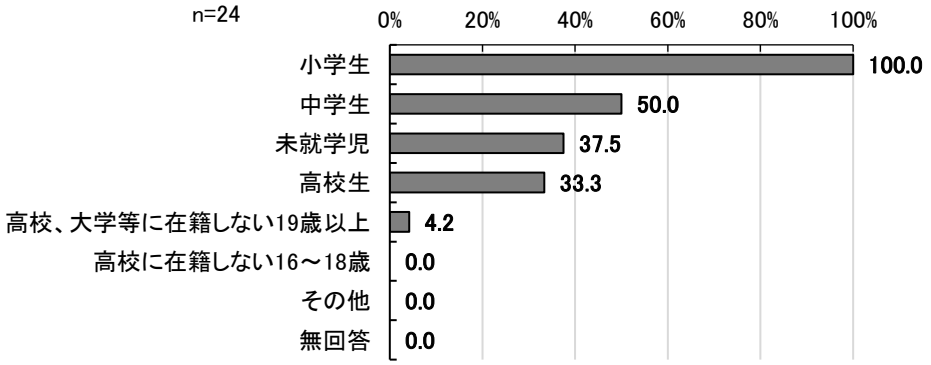
【問７から問１２は、問４で「１．はい」と回答された事業所の責任者の方にお聞きします】

問７　あなたが勤務する事業所を利用しているこども・若者の年代を教えてください。（○はいくつでも）

事業所を利用するこども・若者の年代について、上位から「小学生」100%、「中学生」50.0%、「未就学児」37.5%などの順となっています。

一方、“高校生以上”（「高校生」、「高校に在籍しない 16～18 歳」、「高校、大学等に在籍しない 19 歳以上」の合計の割合）は 37.5%となっています。

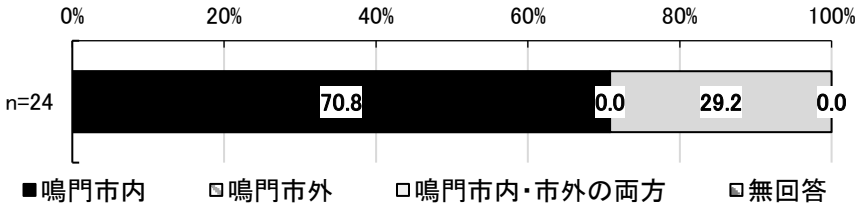
【全体】



問８　あなたが勤務する事業所を利用しているこども・若者のお住まいの地域を教えてください。（○は１つ）

事業所を利用するこども・若者の居住地について、「鳴門市内」70.8%、「鳴門市内・市外の両方」29.2%となっています。

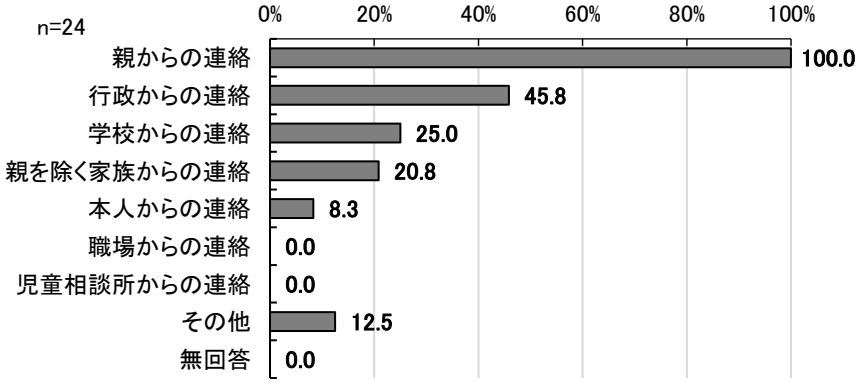
【全体】



問９　あなたが勤務する事業所をこども・若者が利用するきっかけを教えてください。
（○はいくつでも）

事業所を利用するきっかけについて、上位から「親からの連絡」100%、「行政からの連絡」45.8%、「学校からの連絡」25.0%などの順となっています。

【全体】



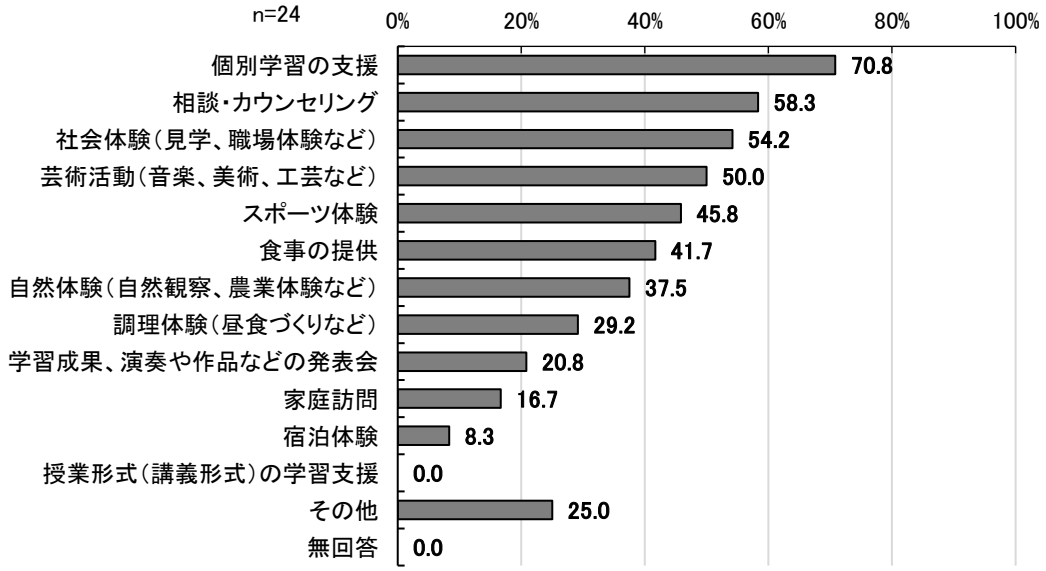
（その他）

・相談支援事業所２件、保護者間

問 10　こども・若者への支援としてあなたが勤務する事業所が提供しているサービスを教えてください。（○はいくつでも）

提供しているサービスについて、上位から「個別学習の支援」70.8%、「相談・カウンセリング」58.3%、「社会体験（見学、職場体験など）」54.2%などの順となっています。

【全体】



（その他）
・在籍校との連携
・療育
・宿題をしたり、おやつを食べたり、一緒に遊ぶ
・おやつの提供
・あそびの空間
・在宅児童支援、保育所・児童クラブなどからの送迎

問 11　こども・若者への支援としてあなたが勤務する事業所が提供しているサービスのうち、特に力を入れている内容を具体的に教えてください。（自由記述）

子ども第三の居場所事業を通して、生活困窮世帯の支援にも力を入れている。地域イベントにも積極的に企画運営しており、子どもまんなかの地域づくりを目指している。長期休暇期間や学校が休校の日は開所時間を８時から 19 時までとし、子ども達が困らないように配慮して運営している。
子ども達が自立に向かい、様々なことに取り組む中で、自信をつけて行くことのために、いろいろな経験をさせている。
安全に利用できるようにする。 自分の気持ちを言葉で伝えたり、他の人の言葉を聞いたりできるように支援する。
子どもが安心安全に過ごせる場所の提供。
基本的生活習慣学習の土台となるビジョントレーニングスポーツ活動、手先の器用さを高めるトレーニング
社会的自立を目指した学習支援、社会体験、相談
個々にプログラムを作成し、その子に合った療育を提供している。未就学の時期から就学、その先の社会へ向けて切れ目のない支援を実施している。
運動（粗大運動、微細運動）、ソーシャルスキルトレーニング
対人コミュニケーション、ソーシャルスキル、身辺自立など
放課後支援
友だちとの関わりの中での遊びの提供
子どもが安心して過ごせる居場所づくり
農家のお母さんを主として地域の子どもたちに地元で採れた野菜を使って食事食材提供をしており、地産地消に力を入れてます。
自分の気持ちを言葉で話が出来たり、ルールを守って友達と遊ぶ。
季節の行事に触れたり体験できる機会をつくるように心がけている
生活習慣の習得、社会に出た後に必要な習慣の声かけ
季節の行事
毎日の個別宿題支援、グループ遊び
食事提供、メニューを家庭で普段食べるような内容のものをできるだけ出せるように、季節のものがあれば、それを味わえるようにしている。また、家庭料理を複数の人達と一緒にまたいろんな年代の人と一緒食べる事が楽しめるように用意している
高校進学に向けた学習支援
特にサポートの必要な家庭への支援
発達支援
日常生活に必要なトレーニングやレクリエーション、季節に合わせたイベント（活動）

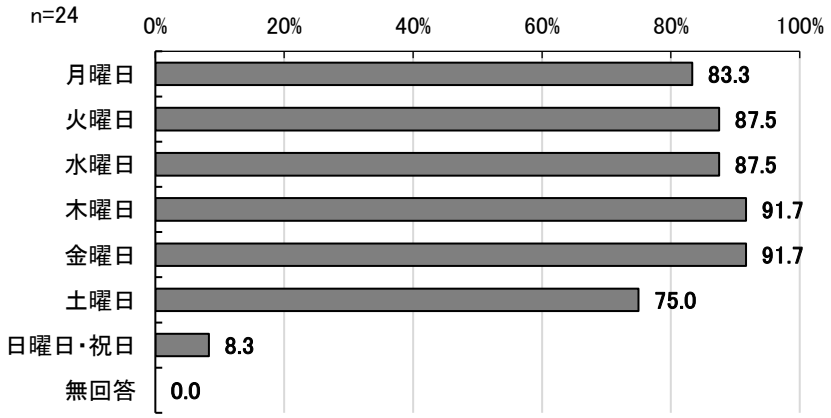
問 12　あなたが勤務する事業所をこども・若者が利用できる曜日や時間帯を教えてください。（数字を記入）

事業所を利用できる曜日について、平日は全体の８割、土曜日は全体の７割の事業所で利用が可能となっています。

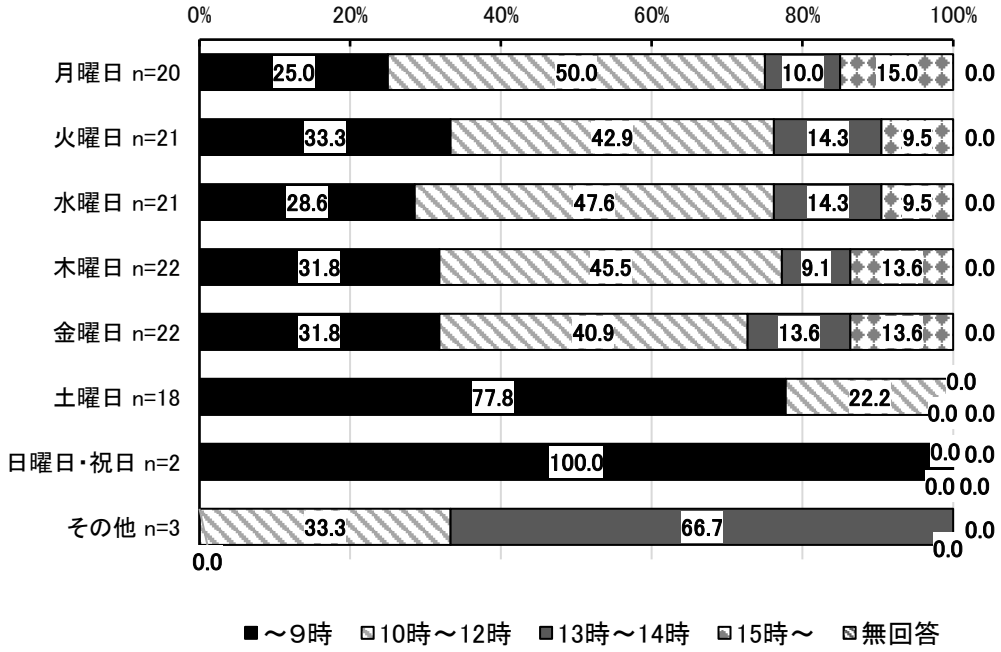
時間帯については、始業時間は“午前中”（「～９時」、「10 時～12 時」の合計の割合）が平日は７割、土曜日、日曜日・祝日では開所しているすべての事業所で午前中からの利用が可能となっています。また、終業時間は“17～18 時台”（「～17 時」と「18 時～」の合計の割合）が平日は８割、土曜日は９割となっています。

【全体】

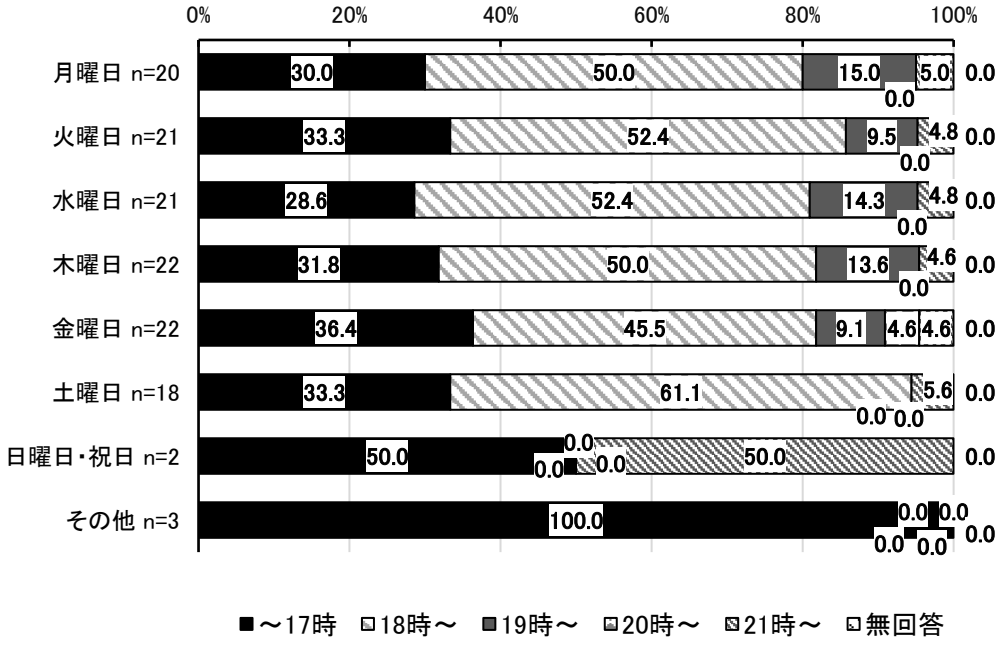
■開所している曜日



■始業時間



■終業時間

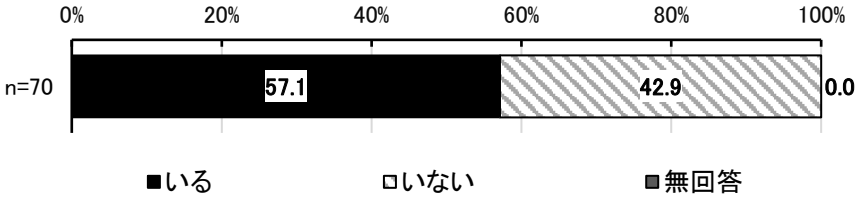

0%
20%
40%
60%
80%
100%
月曜日 n=20
30.0
50.0
15.0
5.0
0.0
0.0
火曜日 n=21
33.3
52.4
9.5
4.8
0.0
0.0
水曜日 n=21
28.6
52.4
14.3
4.8
0.0
0.0
木曜日 n=22
31.8
50.0
13.6
4.6
0.0
0.0
金曜日 n=22
36.4
45.5
9.1
4.6
4.6
0.0
土曜日 n=18
33.3
61.1
5.6
0.0
0.0
0.0
日曜日・祝日 n=2
50.0
0.0
0.0
0.0
50.0
0.0
その他 n=3
100.0
0.0
0.0
0.0
0.0
0.0
■～17時
18時～
19時～
20時～
21時～
無回答

【全員にお聞きします】

問 13　あなたが勤務する事業所を利用しているこども・若者の中に困難な問題を抱えていると思われる方はいますか。（○は１つ）

利用者で困難な問題を抱えていると思われる方について、「いる」57.1％となっており、半数以上の方が勤務する事業所で困難な問題を抱えている利用者がいると考えています。

【全体】



【問 13 で「１．いる」と回答された方のみ】

問 14　こども・若者が抱えている困難な問題の内容を教えてください。（自由記述）

・日常・学校生活に必要な物が無い（水筒、サイズの合った服、ハンカチ、ティッシュ、靴のサイズ等）　・毎日のご飯を心配している　・日々の生活でいっぱい（ストレスを抱えて）将来への希望がない
貧困、親からのネグレクト、虐待など
不登校で昼夜逆転になり学校も、支援事業所にも来られなくなってしまった。学校とも会議を始め連携をとりながら、今取り組んでいる。
愛着障害、貧困
支援が必要な子どもや保護者がいる。
友達関係や学習への悩み
他者との関わり
学習面、家庭事情、個々の個性
保護者が養育できない、経済的な困窮、保護者と死別
友達と上手くコミュニケーションが取りにくく、すぐ手や足が出てしまう。
重度な方ほど受け入れしてもらえる事業所が少ない。保護者に理解力が低いケースがあり子どもの教育、療育自体が難しい。
支援クラス在籍児において、学校によって受けられる支援が異なる。その子に合った学習支援ができていない学校がある。
家庭環境、学習面見守る
家族からの暴力、ネグレクト
ADHD、発達性協調運動障害、知的障害
家庭環境が整っていない

家族にも支援が必要なので、社会経験が少ない。対人コミュニケーションが難しく、自宅以外の場所に出かけるのが困難。
父親からの虐待
父親からの暴力
友達とうまく遊べない、クラブに馴染めない
親の就労が安定しない、金銭問題
発達障害、ギャングエイジ
貧困家庭の子どもが通っています。学力がそこまで高くない子どもが多いです。
家庭環境
親からの虐待、スマホ依存
社会における学校のあり方、公立の学校が求める社会と現実社会とのギャップ、学校ではない学びの場の必要性、自分の居場所のつくり方。
発達障害
養育困難家庭で社会支援に繋がることができない、ひきこもり、不登校
不登校、親が子どもの障害や特性を受容できないこと
悩みを打ち明けられたのではないので想像しかないが、孤食だったり、忙しい等の理由でコミュニケーションが、家族であまりとれていない参加者がいると思われる
保護
貧困家庭
ひとり親家庭での貧困 若年の親によって、十分な子育てができていない
貧困なひとり親家庭 若い親(未成年)での出産
支援方法および児童理解
経済的な問題
親の離婚による子どもが多くなっているし、子ども自身も精神的に不安定な中、金銭面での制約などがあり、それが問題行動や不登校にも繋がっている。

【問13で「1．いる」と回答された方のみ】

問15　あなたは、そのような困難な問題を抱えているこども・若者に対してどのような支援や援助を行っていますか。（自由記述）

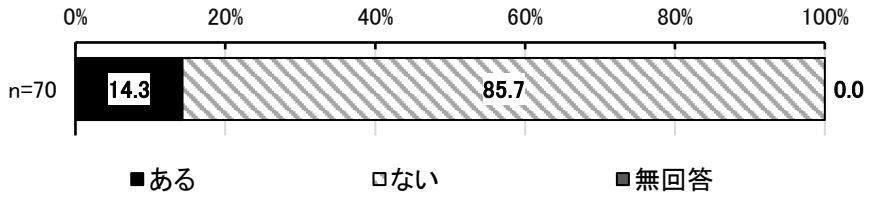
・長期的な目線で、子どものありのままを受け入れながら改善できるスモールステップを大事に個別支援をチームで出来るように支援している。（保護者さんが家での子育てにもう少し協力的になってもらえるといいなと感じている）
基本的な生活習慣を身につけてほしいので、根気よく伝えている。なかなか家では言えないこと、家庭のことでストレスを抱えている子どもが多い。子どもが話を聞いてほしいタイミングでゆっくり聞いたり、そっと寄り添うことしかできないことが多い
母親と信頼関係をとりながら、電話で迎えの時間を決めたり、いつでも受け入れられることを話し合っている。学校と話の中身の共有をしたりもしている。
愛着障害のお子さんとは個別の時間を儲けて話を聞いたり、感情のラベリング等を会話の中で取り入れている。
職員間で話合い、小学校や行政に相談している。
子供同士のケンカなど、その場で解決できるものは当事者同士で納得できるまで話す。話した事、解決までの流れをしっかり保護者にも伝え、必要であれば学校担任へ情報共有する。学習面は、個人に応じた進め方をしたいと思って関わっている。難しくて困っている部分を学校担任から教えてもらったり、学童での学習の様子を伝えたりしながら連携をとる。教え方は、学校で教えてもらっているやり方に合わせたほうがこどもがスッと入りやすいので、どのようなアドバイスをしているのか相談することもある。
関わり方の援助
見守る 学校や家庭との連携
行政機関との連携、養育してくれている人との連携、在籍校と連絡をとる
目を離さない。その子の話したい気持ちをよく聞く、言いたい事はなにかさっして確認してあげる。
施設で出来る限りの受け入れはしていますが、毎日は難しいので、できる事は協力する形となっている。保護者の理解力に合わせて、伝え方を考える。
保護者指導（担任とのやり取りを密におこない、どういった学習支援が希望化を保護者が明言化していけるために）および担当者会議や送迎時に出会ったときなど、担任との直接なやり取りで情報共有をしていく。
見守る、必要に応じて支援する
保護者からの聞き取りをしたり、保護者に寄り添ったり、家族支援を行っている。学校、保護者、事業所、児相などと情報を共有し、多角的にケアできるようにしている。
寄り添う
外出、外食の機会を設けて社会経験を増やしている。 また、要望があれば自宅への訪問支援も行っている。
行動支援、運動支援、学習支援

父親から守り、児童クラブ内で安心に過ごせるよう配慮する。小学校との連携
こどもが安心して楽しく居られる場所作り
遊べない子供には声がけをし、子供が過ごしやすい環境作りを心がけて支援する
金銭的問題の部分は関わりが難しいが事業所が出来る部分、基本的な生活習慣の習得、礼儀、挨拶など生活に根ざした部分を日々声かけしています
声掛け、常に目配り、話を聞く
学習支援
見守っている
見守る
学習支援、居場所確保
一緒に考える。
見守りや友達とのかかわりでの必要な援助、一緒に遊びを楽しむ
学習支援、ソーシャルスキルトレーニング
安全で安心できる場の提供。そこでの遊びの提供。
むやみやたらと質問はしないが、できるだけ寄り添ったり相手が話しをしてければ、それを聞くようにしている
食事交流会や休憩時間の補食の提供。家庭学習が困難な子どもへの学習時間や場所の提供。
貧困と思われる家庭には、法人の中にあるゆめ基金の利用を勧めている
育児サポート
毎日情報交換して効果的な方法を伝える
学習支援
これといって支援はできていないが、子どもたちから、話を聞いてあげる。または、いつでも遊びにきてね。というぐらいのことしかできていない。

問 16　国のこども大綱では、「ニートやひきこもり状態にある若者や家族に対する相談体制の充実」を取り組みの１つに掲げています。あなたが勤務する事業所においては、ニートやひきこもり状態にある方が利用する機会、接する機会はありますか。（○は１つ）

ニートやひきこもり状態にある方が事業所を利用する機会、接する機会について、「ある」14.3%、「ない」85.7%となっており、１割の事業所ではニートやひきこもり状態にある方の利用、接する機会がある状況となっています。

【全体】



【問 16 で「１．ある」と回答された方のみ】

問 17-1　そのような方があなたの勤務する事業所を利用し、つながりを持つようになったきっかけをわかる範囲で教えてください。（自由記述）

同じ敷地内の別の事業所に来ている方が、ボランティアで子どもの支援をしたいということでお手伝いに来てくれるようになった方が数名います。子ども達と一緒に過ごすことでひきこもりや働く意欲が出てきてご本人にもいい影響が出ています。
放課後等デイサービスの利用
妹を預かる中で、兄が引きこもりということを知り、母親についてきた兄と遊んだり、話したりして、来るようになった。
保護者が相談にみえた
保護者からの相談
ソーシャルスキルトレーニングや相談を受けた
ママ友。
紹介。
自殺念慮が高くなったと連絡を受け、支援が開始された。
地域のなんらかの機関からの紹介

【問 16 で「1．ある」と回答された方のみ】

問 17-2　あなたは、そのような方とつながりを保つために、どのような支援や援助を行っていますか。（自由記述）

柔軟性を持って誰が来ても居心地のいい居場所となるように日々スタッフとも話しています。
小学校の連携、各関係機関との連携やケース会議等
しっかり相手を受け止めた。相手が言うことを遮らず、最後まで話を聞いた。家まで迎えに行った。 子どもだけでなく母親のしんどさも受け止めた。否定的な言葉は使わないようにした。等
定期的な家庭訪問
利用日に来所出来るよう保護者に働きかけて頑張って連れて来て欲しいと伝えた。 来てくれた時にはその子の好きな事を共有しまずは心を開いてもらえるよう努力しました。(過去の話です。現在はひきこもりさんの利用はありません。)
子どもたちが、過ごしやすい場所にしようとしています
インスタのフォロー
同じ時間を過ごす。
死ぬ前には連絡をすることと口約束をしている。この約束を覚えていた若者が連絡をするきっかけになったと言っていた。
できるだけ過ごしやすい場所にするようにする。

問 18　こども・若者が利用しやすい環境づくりに向けて、ニーズの把握方法や情報発信など事業所として取り組んでいることや、あなた自身が取り組んでいること、工夫していることを教えてください。（自由記述）

（1）事業所としての取り組んでいることや工夫していること

子ども達が楽しいと思えるイベントを企画することや、出来るだけいろんな地域の方々に出会える機会をもつこと、また、いつも同じ顔ぶれのスタッフも子ども達にとって安心感があると思うので出来るだけ変わらないようなスタッフ体制で運営してきています。
公的機関との連携、地域との関わりなど
ぱすてるだよりを作っている
不登校児の受け入れ、関係機関との連携
叱らないでその子の居場所作りや自信につながる言葉がけ、1人では生きていけないから仲間のことも大切にできるよう、環境や職員研修に取り組んでいる
入学説明会での児童クラブ説明会開催、毎月のおたより配布、校区内のこどもに関する事業所との連携
関係機関と連携をとる。
清潔に心掛けアセスメントの時やその都度気持ちの確認をしている。
子どもが楽しめる遊びを提供、月に数回おはなし会など開いている。
子どもたちが楽しめる環境作り、戸外でみんなで活動的に遊ぶ経験
一日保育など長時間の利用時に工作タイムなどを設けています。月だよりやマチコミなどを活用してイベントや普段の生活を知ってもらうなど。
こどもはもちろん、その保護者の悩みや相談も気軽にしてもらえるような事業者にしたいので、まずは安心して預けてもらえるように、信頼関係をもてるように日頃から迎えの際の会話であったりコミュニケーションを大切にしている。
送迎時の保護者との会話、おたより
SNS の活用、チラシを学校に配布する、子どもたちや親の話を聞く
ミーティングの時に子どもや家族からの要望を発表し、全員で情報を共有している。
保護者からの聞き取りをしっかりおこない、計画を作成し、事業所からの説明をしっかりおこなう。
保護者に対して年一回の質問紙への回答依頼、送迎時に保護者との情報共有、半年に一度、気になる点や伸びてきた点の聞き取り
学校や地域との連携
事業所の取り組みを定期的に SNS で発信している
ソーシャルスキルトレーニングや親の相談など
個別支援と集団支援の両方を組み合わせて活動している。地域のイベントや催し物にはできるだけ参加し、地域とのつながりを持っている。

親子が楽しいと思ってくれる、児童クラブをめざしています
6 か月に一度保護者とのモニタリングを実施している。また、個別でのニーズの聴取や支援計画を作成をしている。 SNS に活動の様子をアップしている。
小学校等にお便りを配布
季節に応じた行事を取り入れたり、親子参加の行事を企画する
親子参加の行事を行っている
おたよりの配布
お便りの配布などを通じて、予定や現在の状況を知らせる
インスタに活動予告や報告をしています。
季節にあった行事をしたり、クラブ便りを毎月発行している。
クラブだよりや保護者会等を通して情報発信している。
保護者会で意見を聞いたり、クラブだよりで伝えたいことやクラブの様子を伝えたり、送迎時にお話をする中で色んなことを知ることがある。
クラブだより、保護者会などを通してニーズの把握をする
児童クラブ等の送迎時間より開所時間を長く設定しています。また当日までに申し込みいただければ食事の提供もできます
会議や研修に参加し、時代にあったニーズや情報を得られるよう努めている。
仕事をしている保護者の子どもの放課後児童支援
親子参加の行事を行うなどして 保護者との交流をはかっている
親子参加の行事を行う
学習支援、居場所確保
いろんな人、いろんな可能性、いろんなやり方を一緒に考え、トライする。
毎年、幼稚園、保育園、認定こども園に利用案内や利用希望調査をしている。
来訪者に、制限は無いようにしている。案内チラシには開催場所や時間日程をいれるだけで、鳴門市内に住んでいる人とか学生でないと参加出来ないなどは一切無い
学習だけではなく、交流会やイベントを企画し、居場所の提供をおこなっている
チラシ、行政の広報誌などでのお知らせや乳幼児健診会場での広報など
乳幼児の健康診断時に広報紙の配布
クラス担任制学校との連携を密にしている
個に応じたサポート等
SNS、ホームページの充実
これといった工夫はしていないが、様々な行事を実施したり、子どもたちが何時でも気楽に遊びに来れる居場所としてありたいと思っています。

（２）あなた自身が取り組んでいることや工夫していること

子どもへの直接支援を通して、保護者さんへの支援や協力をお願いすることで、一緒に子育てしていくような取り組みをしている。
研修会への参加、他事業所との情報交換など
個人に合った支援内容を考え、飽きないようにできるよく考慮している
保護者の相談
あそこに行けば、ホッとできる、なんでも話せるという、保護者との関係。また、専門的職員の配置により、いつでも相談できる、アドバイスがもらえると言う場所づくり。
送迎時の保護者との情報交換 こどもに関わる人達との交流
積極的にコミュニケーションをとる
保護者と積極的にコミュニケーションをとる。
ばすてるだよりを定期的に発行している。支援プログラムをホームページに掲載している
子どもたちが少しでもやってみよう、挑戦しようと思えるような声かけをしている。 帰る際、楽しかったと思えるような保育を心がけている。
できる経験や体験ができるようにきっかけ作りを心がけている
お迎えの際に児童の状況(体調や行っていた遊び、頑張っていたことなど)を共有して、保護者が安心して、一緒に保育ができる環境が実現できるよう心がけています。
こどもの様子、交友関係、体調面など、あらゆることは毎日違う。その日ごとに支援の仕方も変えていく必要があるので、こどもの一日の様子を記録として残して長い目で支援していくようにしている。
保護者との会話
子どもたちや保護者の話を聞く
子どもの事をよく観察する。
保護者さんよりも子どもの味方であるという事を伝えている。好きな事を共有し心を開きやすいようにスタッフも情報収集し勉強をする。子どもの性格を把握し対応する。 子ども同士の相性の見極め、仲介。安心感、認められていると思える環境作り。間違った事をした時にはきちんと叱る、伝える。
保護者に対する相談支援を意識的に実施。特に支援が必要な保護者も多く、そのケースは事業所内だけでなく他サービスとも連携を取りながら支援を組み立てている。
とにかく傾聴する
保護者や本人と定期的に話をし、できるだけ本人の興味関心のあることを活動に取り入れている。
日々の子どもたちをよくみて、楽しいことをいっぱい考えるようにしています
１人ひとりの話をよく聞き楽しく過ごせる居場所づくりを心がけている
児童の発達や特性に合った運動プログラムを提供している。
季節に応じた環境整備やおやつの提供を心がけている

児童クラブで楽しく過ごせるように環境作りをしている
SNS で情報を得たり、いいと思ったことは取り入れてみる
子どもたちが安心して過ごせる環境づくり。友だち同士の関わりや、家庭での様子を把握できるように関わる
保護者からの話は複数の職員で共有し、気づいたことは保護者に知らせると共に職員間でも共通理解するよう心がける
他のボランティア活動の際に子ども食堂を宣伝してます。
保護者やこどもとの信頼関係を取れるように、話をしている。こどもの初診を大切に観たり、一緒に遊ぶ。
お迎えの時に気になることがあれば個別に伝えている。
送迎時に児童クラブでの困りごとや悩みやして欲しいこと、いいなと思うことなどを話すことで、その後の運営の参考にしている。
保護者とのコミュニケーションを積極的にすること
送迎時に保護者のやりとりを大切にしている
送迎時の会話の中で困り事や必要としている事を拾えるように心がけています 利用の変更や食事の変更も柔軟に対応しています
子どもと目線を合わせて話すこと
積極的に話しかける。
子どもの支援
利用者をよく観察して、いつでも保護者に連絡できるよう努めています
子供の様子を観察し見守る
学習支援、こどもと関わるサークル活動
距離感を大事にしています。
facebook での広報活動
活動が終わった後フェイスブックに投稿している。
その日の運営に手を取られていることも多いができるだけ声かけしたり話を聞く様にしている
子どもや指導員の大学生とのコミュニケーションをしっかりとるよう心掛けている
関係機関や関係者との情報交換
学習や運動を通して児童を支援している
個に応じたサポート等
SNS
私自身が取り組んでいることは、これと言ってありませんが、ここへ来るのが楽しいと言ってもらえるような施設でありたいと思っています。

問 19　あなたがこども・若者の支援を行う中で感じている課題を教えてください。
（自由記述）

・保護者さんの協力がなかなか得られない事で、子どもさんへの影響が大きいため、支援をしていてもなかなか課題や目標を達成することができない。　（例：保護者さんがルールを守れなかったら、子どももルールを守れない）　・送迎や利用人数の関係で、すべての子ども達を受け入れることが出来ない。　・子ども達が（学校）生活に必要な物を持っていない（水筒、文房具等）保護者さんにお伝えしても改善がない。
負の連鎖を目の当たりにする。支援者の力だけでは難しい。子どもの教育も重要であるが、親の教育も必要である
親の要望と子どものしたい事が違うため支援しにくい
不登校や引きこもりの人への対応
まだまだ偏見の中で過ごす子どもや保護者に、もう少し手を差し伸べてあげてほしい。また、高校生くらいになると、行き場所のない障がい者のことにも、優しい社会づくりはできないものか。家庭から社会で受け入れてもらえる場所が欲しい。
愛着障害のあるお子さんとの接し方、またその保護者へのアプローチの仕方
生活習慣について。友達との関わりについて。家庭、小学校との連携
保護者の中に放任している家庭がある。そして、過干渉過ぎる家庭もある。
子どもと親の関係性
子ども保護者の関係性(過干渉、放任等)とそれが子どもに及ぼす影響。
子どもと保護者のニーズが離れていることがある
子どもの生活経験が不足しているように感じる。
子どもたちの成長をみていると経験していないことが多く低年齢化を感じる
各家庭での親子の時間が取りにくくなっていると感じています。仕事と育児の両立が難しい家庭が増えているのではと心配です。
特に低学年、自分の思いを言葉に変換することがまだまだ難しいので、子供同士の会話の中で、違う伝わり方をしてしまうことが多い。
児童クラブ、家庭における各々の見解の相違
良いこと、悪いことをきちんと知らせる
支援は長期間にわたるため、教育と福祉の連携による絡めない支援体制の構築。行政と民間の連携による細かい網の目づくり
自分の価値観で判断してしまわぬように広い視野を持つこと。
保護者である大人の存在が大きい。　子どもにとって保護者との関係性がうまくいっていない時に子どものメンタルが崩れている事が多いように思う。めんどくさい事には関わらないようにしようとし、保護者以外の大人が色々と気づく事があっても熱血に動こうとしない所があったり、見て見ぬふりする大人も増えたように思う。
どんな支援を必要としているのかを知ること

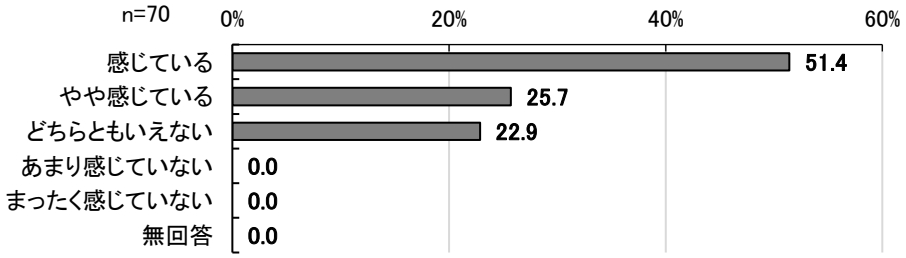
必要な子が必要な量の療育を受けられていない。保護者に対する支援が必要なケースが増えている
子どもへの支援を行っているが、同時に保護者支援の必要性を感じる
思春期対応や、愛着の問題がある子に対する支援は難しいと感じる。
少子化で、友だちや、家族以外の人との付き合い方を知らない子どもが増えている。学力が昔に比べるとかなり落ちている
自分の思いを押し付けて友達の気持ちを考えられない子がいる。
主に放課後の支援となり、限られた時間の中で個別で関わる時間が確保しにくい。
生活している環境がそれぞれ異なる保護者に対して、自分の主張を伝えにくい事が、多々ある
一人ひとりもっとより丁寧に関わっていくこと
相手の気持ちに気づいたり、感謝の気持ちを表したり、問題を解決するために話し合う場を作る
面倒くさい、疲れたなどやる気の出ない言葉をよく聞く。相手を傷つける言葉が平気で出てくる。
保護者との信頼関係を築いていくことの難しさ。時代に合った保育
変わらない物もあるが、考え方や生活の様子にギャップを感じることがある
こども若者が抱えてる問題に対して、彼らが自分なりに工夫して乗り越えていく力を持つこと。 我々大人はその力が発揮できるよう後押ししてあげること。
支援児童との関わり
どうしたら子ども全員に話しを聞いてもらえて理解してもらえるか
子どもとの関わり方や接し方。不当な保護者からのクレーム
子供の気持ちに向き合い接する
社会体験や自然体験などを取り入れて行きたいと思う気持ちはあるが時間的都合で難しい
現代の子どもたちに対する伝え方、話し方（注意の仕方）の難しさ
現在の勤務形態では勤務時間が短いため、こどもとの関わりが限られるので、問題を見つけ辛い
事業所と家庭との連携の大切さを感じます。事業所で何度も声かけしても家庭で過ごす時間のほうが圧倒的に長いため同じように声掛けを継続できないとなかなか効果が定着しづらいと感じます
子どもの少子化、支援員の責任感。
支援員不足により、支援が行き届かない
相対的に貧困家庭の子どもは学力が低いように思われる。
SNS トラブルなど、見えないところでの課題に対しての対応法。
各家庭の教育方針が違うこと
子どもたちの親の考え方

クラブの中でじっくりと子どもの話を聞けていない時がある。どうしても、きちんと意思表示ができる、子どもだけではないので、おとなしい子どもがかえって、何か悩んでる事がないかと思う時がある。
スマホの取り扱いに関する課題
SNS の存在の大きさ。
構いすぎない。必要な関わりが出来るように状況が把握出来るように見守りをする。興味を示しそうな遊びに誘う。
支援員不足。
全体的に予算が足りなかったり運営資金不足のため継続性が不明瞭。 問題のある家庭に経済力がないことが多い。
自分の体力
曜日や時間が、最近の参加者にマッチしていないのか、あるいは年齢層の高い女性がボランティアスタッフに多いので、献立が子ども向けではなくなってきているのか、参加者が減少気味なのが悩みではある 本当に支援の必要な参加者にも遠慮なくどんどん来てほしいが、どのようにアナウンスすれば伝わるのか、来訪しやすい雰囲気になるのか、模索中である
よく相手の話を聞く。
個別対応の為、個々の学習状況や家庭環境を把握し１人１人に寄り添った対応を行わなければいけないこと。学習にあたる指導員の確保が難しいこと。
本当に困っている人に十分な支援が届いていない
親の貧困差
保護者や行政との連携
自分の体が、子どもの動きに対応できなくなってきたと感じる
様々な問題を抱えた子がいる中で詳しい事情を知らないためそれぞれの子にどのように接すれば良いかが難しい。
多様な個の特性への対応
18 歳での卒業後（18 歳までの利用の為）、継続しての支援を行うことができない
家庭環境が子どもに与える影響は大きい。かと言って何ができるかと言われれば話を聞く以外何にもできない、もっといろんな形で行政が支援してほしい

問 20　国では、こども・若者の孤独孤立の問題を防ぎ、将来にわたって幸せな状態（ウェルビーイング）で成長できるよう、「こども・若者の居場所づくり」を推進しています。その中であなたが勤務する事業所の活動内容は、この「こども・若者の居場所づくり」につながっていると感じますか。（○は１つ）

事業所の活動内容が国が推進する「こども・若者の居場所づくり」につながっていると“感じている”（「感じている」、「やや感じている」の割合の合計）割合は 77.1％と７割を超えています。

【全体】



【問 20 で「１．感じている」と「２．やや感じている」を回答された方のみ】

問 21　そのように感じた理由やエピソード等を教えてください。（自由記述）

小学生の子どもが、居場所での初めての体験に喜んでいる姿を見る時、美味しそうにご飯やおやつを食べる時、居場所を卒業した子が訪ねてきてくれたり、街で会ったときに元気に成長して笑っている時、やりがいを感じます。
ご飯が食べれる、おやつが食べれる、服が綺麗になった、宿題ができるようになった、外出にも連れて行ってもらえる、と安堵した子どもの顔を見ていると、通常の状態で過ごせていない子どもが安心して子どもらしく過ごせる場所だと感じている 子ども時代のそのような当たり前の経験が 人間形成に良い影響を与えると信じている
児童館では馴染みにくかったり、居づらい子どもが楽しいと言ってくれる
利用児童の保護者との会話、トラブルにあったこどもの保護、関係者への連絡
立派な大人に成長している。大きくなっても「先生」と訪問してくれる。
大きくなっても訪問して顔を見せに来てくれる
保護者から「子どもが児童クラブが大好きだ」と聞くのがよくある。
いる間楽しく笑っていることが多い
卒業生が遊びにきたり、一人っ子の児童が友達や職員と楽しそうに遊ぶ姿を見ているとそう感じる。
巣立った子が来る
一人っ子の児童が「ここに来てると楽しい」と話をしていたのが印象に残っています。
子どもが過ごす安全な場所

利用している児童はもちろんだが、その児童だけでなく、地域のこどもや卒業生なども、災害や迷子などで大人が居ない環境で困ったときの居場所に思ってくれていること。
放課後の子供達の居場所になっている。 同年代の子供達との関わり合いの場となっている。
子どもたちが本音で話をしていると感じる。
児童クラブを卒業した子どもが、何かしらの困りごとが発生した時に、頼って来てくれたりすると、嬉しい。
学校や家庭では難しい事、辛い事があってもここにいると安心してくれていると感じる事が多くある。
発達特性が強く、定型児とのやり取りが難しい子どもに対し、同じようなお友達と関われる機会を提供している
利用者の兄弟等も支援する
家から出られなかったのに、ひとみ学舎には来られるようになった
たけのこに来るのを楽しみにしています、と保護者の方や本人から聞いたりする。 また、「たけのこの先生と一緒ならやってみようかな…」と新しいことをする時に拠り所になっている子もいるので居場所として機能しているのかな、と感じる。
児童クラブを卒業した子どもたちも、よく遊びに来てくれる
コミュニケーションや人間関係を築くのが苦手な児童は大人の目が届きやすい事業所では、友達と良好な関係を作ることができており、共に様々な経験ができている。
遊びの中で、家の様子や家族の話をしてくれたりして、自分自身が子どもにとって身近な存在であると実感するから
放課後や長期休みの子どもたち同士の交流
卒業しても、児童クラブに顔を見せにきてくれる
放課後に集団で利用でき、友だちや支援員と一緒に勉強したり遊べる場所が提供できている。
一人でゲームするより、ここでみんなと居るほうがいいと子どものつぶやきを聞いたから
まんまる食堂の利用者が定まってきている。毎回開催を楽しみにしているとの声。
異年齢との関わりを通して、助け合いや話し合うことができている。
日々の遊びや制作、誕生日会やお楽しみ会の時等のゲームやおやつを食べている時の笑顔
共働きの家庭の子どもの居場所として 安定した時間を過ごせるよう取り組んでいる。保護者に、ここがあって本当に助かるしいろんな活動も体験できて子どもも喜んでいます。という声を聞いた時。
クラブを利用することで、他学年との交流ができ、遊びや行事などを楽しむことができる
家でいるより楽しいと言って利用してくれている
留守番家庭を減らす

両親共働き、祖父母は県外に住んでおり、近所では一緒に遊べる友だちが少ないという環境のお子さんが、放課後も安心安全に過ごせる場所である。
中学生で部活も開始し忙しい生活が始まっても『ここで過ごす時間が好きだから』といつも立ち寄ってくれます 家でいると兄弟がうるさく落ち着く空間で過ごしたいとのことです
児童クラブなので放課後の居場所作りにはなっている
毎週楽しみに通う子ども多いです
ここに来ることを通して、友達や先生と交流する場になっていると思うから。
クラブのクラスだけではなく、全体で支援員同士が話し合いが出来ている
子供の居場所作りに役立っていると思う
子どもたちの利用状況をみると居場所になっている
学習支援活動を通して、こどもと関わりを持っていること
継続して顔をみせてくれるから。
親のいない放課後の時間を異学年の子どもといっしょに様々な活動をして過ごしている。
いてくれていて良かった等の言葉を子どもから聞くことがある。
居場所の活動内でお母様と参加していた子どもが一人で参加するようになるなどの変化がみられる事があるから
小学生の時から参加していた子どもたちのうち、何人かが中学生になった時に、お手伝いに来てもいいですか？とボランティアスタッフになってくれたとき、とてもうれしかった
子どもが成績が上がったことや学校でのうれしかったことを教えてくれること。学習支援に来るのが楽しみだと言ってくれること。
本人が、安心して、過ごせる場所と、感じてくれたり、自分から、行きたいと思ってくれる場所になれた時
私が学生時代に塾で受けていた指導と同等またはそれ以上の支援を無料で受けられていると感じるため。
数年前になるが、中学生の子がいじめにあい、不登校になった時、毎日のように施設に遊びにきて、高校へは行けるようになり自分の目指す保育士になる

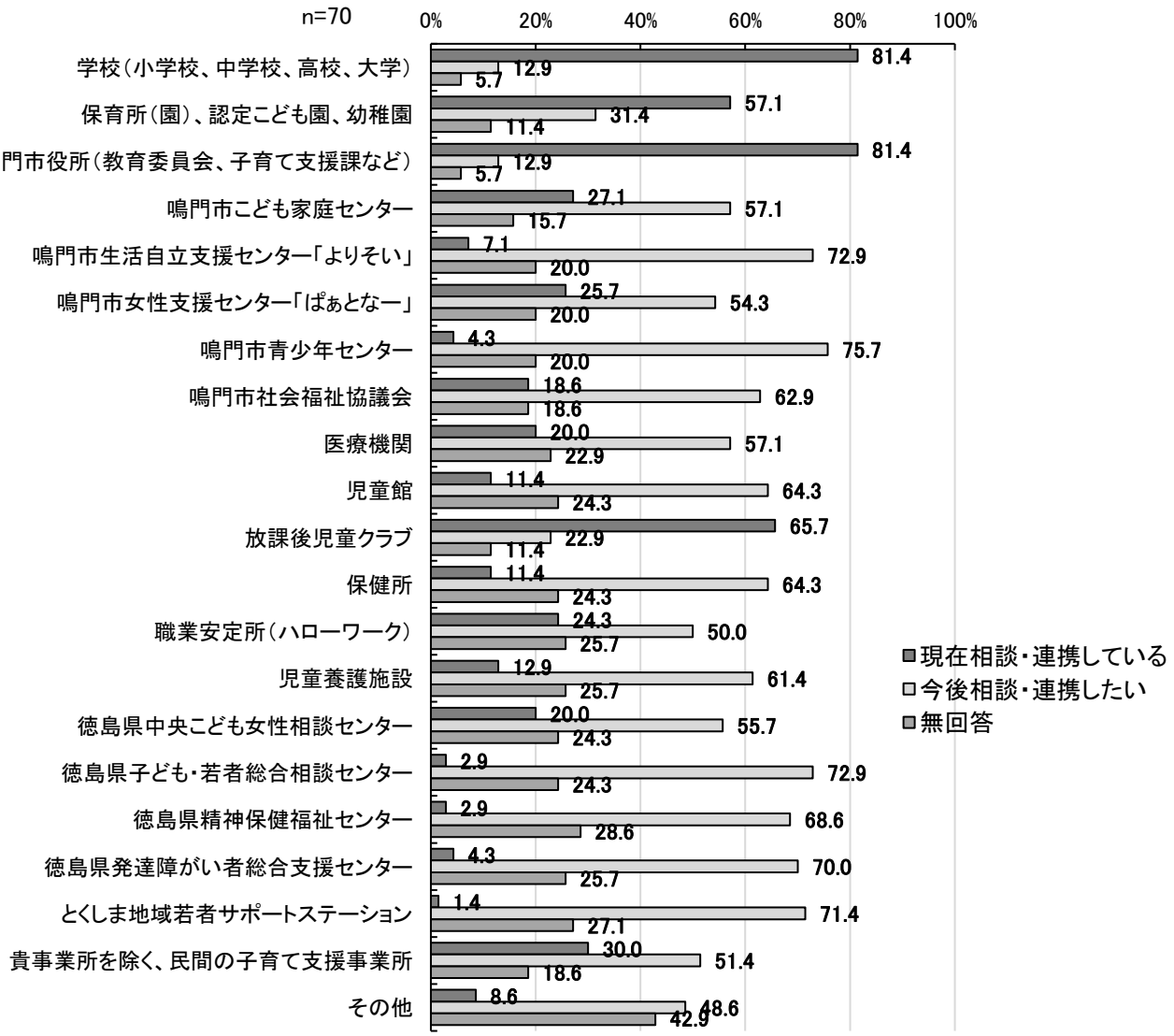
貴事業所を取り巻く状況についてお聞きします。

問 22　あなたが現在相談・連携している機関、あるいはこれから相談・連携したいと考えている機関を教えてください。また、現在相談・連携している場合はその内容や、相談・連携する中で感じている課題、これから相談・連携したい機関がある場合はその内容を教えてください。（該当する項目に○を１つ）

現在相談・連携している機関について、上位から「学校（小学校、中学校、高校、大学）」と「鳴門市役所（教育委員会、子育て支援課など）」が 81.4%、「放課後児童クラブ」65.7%などの順となっています。

また、今後相談・連携したい機関について、上位から「鳴門市青少年センター」75.7%、『鳴門市生活自立支援センター「よりそい」』と「徳島県子ども・若者総合相談センター」が 72.9%などの順となっています。

【全体】



（その他）
・ファミリーサポートセンター（４件）
・公民館（３件）
・ナチュラルキッズ（２件）
・鳴門市基幹相談支援センター（２件）
・病院の言語聴覚士
・相談支援事業所オリーブの木
・第一小学校区子どもの居場所協議会
・支援児施設
・警察
・放課後デイサービス
・徳島県立近代美術館
・子育て支援や社会共生、若者やまちおこしの活動をしているところ
・こども食堂
・支援を充実させるために、地域の様々な機関と連携を図っていきたい。

（１）現在相談・連携している内容、相談・連携する中で感じている課題

学校送迎に鳴門市内の小学校に行く際に、送迎車の関係で他の小学校を寄っていく場合少し遅れることもあるため、学校の敷地内の決められたところにお迎えに行くが、遅れるとすぐに小学校からお迎えについてのお電話が事業所にかかってきてしまうこと。各小学校（各クラスによっても）の就業時間がバラバラなので、保護者さんから連絡をいただいたお時間にお迎えに行くが、厳しい状況です。
子どもの状態、家庭の状況など 常に情報共有している
利用時の関係する機関以外は相談しづらい
関係機関のケース会議の日程調整
情報共有、研修会参加等
児童養護施設へ処置入所となったこどもに関する情報共有
こどもの一日の生活が家庭、学校、児童クラブと途切れなく送れるように、支援や配慮すべき事柄の共有について
支援が必要な子どもをサポートする上での連携について。
情報交換
市役所が少し遠く、書類等の受け渡しにタイムラグがあるのが少し気になります。
同じ職種であっても、違う放課後児童クラブの支援員と研修を行う中での気づきがたくさんある。よりよいこどもの支援をしていくための発見や相談窓口を知るきっかけにもなっているので、大切であると感じる。
気軽に相談できる時間が取りづらい
子どもの現在置かれている状況についてどこまで詳しく連携がとれるか
子ども支援、お互いの役割を理解し合うまでに時間が必要、良い人と出会いたい
学校で何か問題がおきたとして、何名かはクラブに来ていない子どもも含まれる事があり、全てを引き継ぐわけでない。
保護者の理解、受容
教育の場と連携してはいるが、子どもの利用時間が完全に逆転しており、時間がゆっくり取れない（放課後に利用するため。）
幼稚園、小学校等とどこまで詳しく話し合いをし子どもを支援していくのか？
情報を共有するところまではできても、その後の対応はそれぞれの管轄、それぞれの事業所と、足並みが揃ってない気がする
保育所等訪問で密な連携を取れている学校などがある一方で、訪問等をしていない児童で問題がある場合は保護者を介しての情報共有のみとなっている事もある。
小学校との連携があまりとれていないので、児童クラブと活発に交流できる機会をもちたい
小学校等のお便り配布
守秘義務があるので、なかなか情報共有ができない

個人情報とかの問題ですぐに聞きたいことも時間がかかったりすること
同じ子どもに関わっているのに、個人情報などの関係で小学校での生活や子どもの様子が把握できない。
相談の内容やタイミングなどどの程度するのがいいのか
行事。 個々の支援について相談や情報共有している。
個々の現状や支援についての情報共有などを行なっている。各機関、多忙な中で相談や連携がもてることはとても大切だと感じている。今後も継続していきたいと願う。
共通理解
避難訓練(不審者、地震津波)や支援児についての知識がもっとほしい。
支援学級に通う子ども達の普段の学校の様子を担任の先生に聞く。
保護者からの情報不足
個人情報を重視するため、いろいろな情報が入ってこない
スマホをはじめとするICT機器との関わり方の指導
目指す方向性の違い。
支援児童、個性豊かな児童の情報や配慮の仕方の提供を受けている。
誰のために何しているのか一致していないことがある気がする。
生活保護だったり支援が必要な方に関しては個人情報保護の観点から具体的には知ることが出来ない
連携している相談機関にて、支援が必要だと思われる子ども（家庭）に対して声をかけてもらう。 小学校や中学校で周知をおこなう。
育児困難な家庭についてのサポート。利用料金が必要なので、十分に支援できない
サポートしているお子さんの家庭環境、共通理解
子どもたちが、集団で、どう過ごしているかの把握と、子どもたちの困り感を現場で、確認させてもらう。

（２）これから相談・連携したい内容

幼小中学校の職員の方々にも放課後の子ども達の第三の居場所について、事業内容など広くご理解いただければ嬉しいです。現在事業所職員として学校の一部の先生のみご理解いただいているような感じがします。
学校での様子など見学させていただきたい
不登校児の保護者への対応。
状況共有
家庭環境の改善、子供だけでなく保護者への支援
非常時の計画や連携の見直し
支援が必要な子ども、家庭のサポートについて。
将来の進路など
保護者の方の悩みにも、相談窓口等の助け舟を出せるように、女性センターなども連携したい。
学校及び児童クラブにおける子どもたちの様子
気になる子について情報を連携し、過ごしやすい環境を整えたい
子どもが働くところまで支援したいので、連携したい
いじめ、いじめと認識せず発する言葉などで傷つけられた子どもがいたとき。
発達に遅れがあり、支援クラスに入っているが支援クラスの先生が発達特性を知らない方が多い。今後この状態をどう考えていくのか。教育と福祉の差はあるが、うまくお互いを利用し子どものためになるにはどうしたら良いのか
学習の仕方、教え方 生活の様子や保護者の思い
放課後等デイサービス同士、たまには一緒に行事を行う。交流会的な。
たけのこを利用している子の学校や自宅での様子を知りたい。課題の共有をしたい。
その都度、個別の問題が顕在した時に、適切な機会に相談する予定です。
ファミリーサポートセンター
子どもの学校生活
虐待や貧困家庭など、児童クラブに所属している子の情報は、スムーズに知らせてほしい
学校での様子や家庭との連絡のやりとりを共有できたらと思う
小学校と児童クラブでの子どもたちの様子を情報交換
鳴門市内の各子ども食堂の連携、組織化
いろいろな機関との関わりがほぼないので、まず交流をもつ場がほしい。
このアンケートを機に今後の課題を改めて話し合い、考えていきたいです
問題が解決に向かうような共有事項があればいいと思います
障害のある子どもへの支援。
支援学級に行ってる子どもにどう寄り添うか。

教員として働くなかで発生するトラブルへの対応策
発達障害の児童について学校での様子が共有出来るよう担任と話し合える時間がある事が望ましいと思う。
外あそび場の環境整備、桜の樹木消毒、リサイクルステーションの除草は管轄外ではないでしょうか。 こちらの担当か？
とにかく人手がたりないのでそれについて相談したい
上記（1）の課題から、情報を直接入手はできないと思うので、こちらの情報を流してもらって、気負わず参加できることを伝えてもらいたいし、子育て（未就学児、乳幼児も）中、ほっと一息できる居場所を月１回ではあるが提供したいので、そういう支援に結びつけられるアドバイスが欲しい
他機関からのつなぎ
利用についての事など、行政と相談していきたい
ヤングケアラー
発達障がいの児童に対する効果的な支援
自立支援協議会の子ども支援部会で、話題提供をして、各事業所と、連携をとれるように活動する。

問 23　今後、「こどもまんなか社会」の実現に向けて、行政は特にどのようなことに力を入れていくべきと思いますか。具体的にご記入ください。（自由記述）

子ども達が健全に育っていくために、保護者向けの子育て研修を必須化した方がいいのではと感じています。子ども達と地域の様々な子ども達の支援団体を今以上繋いでいただければ嬉しいです。
いろいろな取り組みがあるが資金面で難しいとも思うが頑張って欲しい
家庭状況の把握、情報をしっかりして、各関係機関が同じ状況を把握して対応できるようにして欲しいです。
現場の方に足を運んで、実際の状況を見て欲しい。 みんなで情報交換をして、家庭や子どもを守っていって欲しい。
子供に携わる職員数の増加
こどもは保護者、教師、支援員、周りの大人の関わり次第で心身の健康、成長が良くも悪くもなる。まずは大人の気持ちに余裕が必要
すごく頑張っていると思います。
現状ある課題に取り組んでいただければと思います
子どものためのたくさんの取り組みをされていると思います。
ニーズの把握と各事業所との連絡調整
保護者のサポート支援
今も市に相談しやすいのがいい
子どもだけでなく子どもをとりまくすべての人に力を入れてほしい
行政同士の横の連携、民間との連携。単なる連絡だけではなくて、本気で子どもを見守っていけるような体制づくり
子どもの貧困
子ども達が通っている所の先生方が子ども達の違和感を察知し、行政と小さな事でも共有し、カウンセリングを個別におこない、問題があれば対応していけると早めに対策が取れるのではないか。色々な事に気づける大人を育て、見捨てない。見過ごさないという事が大切なのではないかと思いました。
発達特性が強い子（発達障害の診断/手帳取得/受診継続中など）および保護者に支援が必要な児童に関しては、10 歳頃までは保健師が継続して担当して欲しい。完全に就学のタイミングで切れ目になっている。家庭児童相談員に…と言われても保護者が相談しにくいと。小学校に上がって園から引継ぎされていない内容も多く、その現状を共有して欲しい。
もっと、子どものいる現場に入って実際に体験して欲しい
子どもがのびのび遊ぶことのできる公園の整備。そこに見守り機能があれば、安心して遊ばせることができるのではないか。
現場の声をもっと聞いてほしい。事業所を本当に利用したい人が適切に利用できるよう、制度を整えてほしい。

やはり不登校の子どもが多いこと、気になります
特性を持った児童が様々な経験ができるように、人的資源を確保するための環境整備や経済的な補助を充実させて欲しい。
子どもたち一人ひとりが幸せに暮らせる環境をつくってほしい
子どもたちと関わる職員への支援
親の子育て意識改革
こどもを社会で育てる事は良い事だと思うが、親が我が子の子育てを人任せにしてしまう社会になるような気がする。子育てだけでなく親育てにも取り組んでほしい。
子どもが病気になった時に安心して家で看れるか、病児保育が利用できる環境作り。
様々な家庭環境のこどもがいる中で、方向性を持って、寄り添い、支援してほしい。 母子家庭、父子家庭などの支援
子どもがのびのびと過ごしやすい地域、社会であってほしい。
子供達が安心安全に手軽に過ごせる環境や施設作りを心がけてもらいたい
保護者ばかりの支援ではなく、支援員の事をもう少し考えて取り組んでいただけたら。子どもたち、保護者には手厚いと思います。
スマホの普及により子どもが友達同士で遊ぶ機会が減っているように思います。そのためコミュニケーションが取れない、指導員に対し敬語が使えない子どもも多いです。異学年交流等の機会があればよいと感じます
家庭との連携。
児童クラブの支援員の数が足りてない中、若者が就業しにくいので、しやすい環境を作ってもらいたい。
文化会館などの施設充実
鳴門市は文化会館などが今ないため、文化面不足、芸術作品など見る場！屋内乳児、幼児の遊び場が必要！
こどもの声を直接聞くことが出来る機会を設ける
子どもたちには平等に予算がゆきわたるようにして欲しい。
学校、公民館、公共施設等、地域社会等に「こどもまんなか社会」の要望等、知らせの通知をこまめにして、情報の共有をする。気軽に参加出来る講習会を行う。
働き方改革が進み、ネグレクトに近い親が増えてきていると感じる。他人まかせの子育てが当たり前になりつつある親たちの親育てが必要であると強く感じる。
予算を増やして欲しい。
働く人が普通の生活できるようにしてください。
出産前後で、仕事を休まざるを得ないと思うが、会社や事業所で、心置きなく休暇が取れるように、周りや社会全体の出産子育てに関する理解がしっかり広がるように自治体からも働きかけが雇用側に必要
貧困家庭をなくす。

誰一人取り残されない支援の仕組みや、各機関との連携、一つの機関だけでは解決できない課題を多く抱えている場合は多くの機関や支援が必要だと思います。また、利用できる支援があるにもかかわらず情報が伝わっていない、自分で調べることが困難な家庭や子どもの場合、機関や学校から情報を提供していくことが必要だと思います。
休日も含めた親子の居場所。我が事業所で考えると、もう少しサポート料金が安くなれば利用者も使いやすい
親子の居場所づくり、貧困差をなくす、親のサポート
行政のことはよく分かりません
緊急時の対応を検討したい
このような教育支援の活動が行われていることをもっと知ってもらえるようにすべきであると思う。親の意思でなく、子供の意思や意欲に寄り添った支援かできるようにすべきであると考える。
予算・人員の確保
子供たちが住みやすい世界づくり、人員不足の解消、予算確保
子どもが自身が、自分の将来や現在を考える中で金銭面で悩まずに進んでいけるようにしてほしい。たとえば、大学に進学に行きたいのに断念してしまう